
Can you Mystery

繭詰雨雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C a n y o u M y s t e r y

【Nコード】

N 8 9 1 5 C

【作者名】

繭詰雨雲

【あらすじ】

変な人、奇妙な出来事に巻き込まれる日常。迷惑だけど、暇じゃないと思いませんか？

無名・0（前書き）

場合によってはエログロなネタが出てくるかも知れません。
まだ分かりませんがね。

無名 - 0

名前：喜屋武優きやん ゆう

性別：男

職業：現在二ートを満喫中

長所：周りの目を気にしない

短所：自分勝手

特技：無意識のうちに“変な人”を集める、頻繁に“奇妙な出来事”に巻き込まれる

喜屋武優きやん ゆうの人生は奇想天外摩訶不思議。

これはそんな優の人生の、ほんの切れ端のような話。

無名・0（後書き）

三日坊主も程々にして、みなさまの『暇つぶし』程度にはなれるように続けていこうと思います（笑）

不死の病 - 1

「あの、私を殺してもらえませんか？」

変なヤツに声をかけられるのは慣れていた。

正直またかと思った。

多分殴っていた。そこが渋谷の大通りじゃなければ。

その日、二丁満喫中の俺は渋谷をぶらついていた。

大通りを抜けようとしたそのときだ。

背後から肩をつかまれ、誰かが耳元でささやいた。

「突然すみません。少しお話を聞いて頂けないでしょうか？」

「アンケート？」

「いや・・・あの、私を殺してもらえませんか？」

俺は後ろを振り向いた。そこに立っていたのは50歳くらいの男性だ。

「いやいや。そんなことしたら俺捕まっちゃうじゃん。」

「お願いです、あの、お話だけでも・・・」

全く、いい加減にしてくれよ・・・

「私、死ねないんです。」

流石にここまで変わった方は初めてだ。

「え、意味が分かんないんですけど？」

つてか変わ^かつてるとい^{へん}うか変だ。

「ええ、ですからお話だけでも・・・」

「いやいや、明らか怪しいから。」

「お茶ぐらいなら出しますんで。」

「お茶って・・・」

「和菓子もつけましょう。」

・・・和菓子か、きわどいな。

「ダメ、ですよね・・・？」

まあどうせ暇だし、少しくらいならいいか。

「ふう・・・じゃ話ぐらいならいいよ。」

全く、暇ってのはいいねえ。

「本当ですか？信じてもらえたんですね！」

え、何？俺はもう協力することになってんの？

「い、いや・・・そういうわけじゃ・・・」

「ありがとうございます！」

「誰がそんなこと言っ・・・ちょ、頭上げろって！みんな見てるから！」

・・・クソめんどうなことになっちまったなあ・・・

不死の病 - 1 (後書き)

んー、暇つぶしには程遠いですねえ。
まあまだ完全に本編に入ったわけじゃないですしね(笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8915c/>

Can you Mystery

2011年1月9日03時39分発行